

新たな10年間のまちづくりの方向性を示す

新総合計画の基本構想が決まりました

市では、来年度からスタートする第4次総合計画の策定に取り組んでいます。これまで、多くの市民の皆さんに参画していただきながら進めてきた策定作業も、いよいよ大詰めを迎えています。

計画の中心となる基本構想は、市総合計画審議会からの答申を受け、12月の市議会に上程し、議決されました。引き続き、前期基本計画（平成23～27年度）の策定を進めています。ここでは基本構想の概要を紹介します。

まちの将来像

本市は、さわやかな大気、美しい緑、実り豊かな大地と清らかな水に恵まれており、富山湾上はるか能登半島を望み、振り返れば雄大な北アルプス立山連峰を仰ぎ見る素晴らしい景勝の地にあります。この自然美しく、歴史古く、文化の水準高く、経済力豊かな加積の里には昭和46年度からの第1次滑川市総合計画以来、一貫して市政の三大目標である

- ◆美しい環境の住みよいまち 滑川
 - ◆活気に満ちた豊かなまち 滑川
 - ◆香り高い文化のまち 滑川
- の実現に向かって市民一丸となってまい進してきました。第4次となる本総合計画においても、本市にとって住みよさ、活気、文化など普遍的なテーマであるこの三大目標を確実に



基本構想案を答申 市総合計画審議会



上田市長に答申書を手渡す今村会長

新総合計画の基本構想などを審議する市総合計画審議会の議論がまとまり、11月24日(水)、市役所で今村弘子会長（富山大学極東地域研究センター長）から上田市長に基本構想案を答申しました。

同審議会は、市内の各種団体などから推薦された市民ら20人で構成。昨年10月に市長から諮問を受け、市の将来像などについて5回にわたり意見を交わし、基本構想案をまとめていただきました。



キラリン

キラリンは、地域のイメージアップのために市民から公募したマスコットキャラクターの愛称です。キラリンが応援団となって、元気な滑川の創造に取り組んでいきます。

として広く内外に発信していくこととします。

ひと・まち・産業が元気なまち 滑川 —キラリン元気計画—

そのため、新総合計画で目指すまちづくりの将来像を

『ひとが元気』であるためには、教育が充実し健康で生きがいやゆとりをもって安心して生活ができることが重要です。そして、元気なひとの周りにはもっと元気なひとや多くのひとが交流することによって、まちににぎわいと活気をもたらします。『まちが元気』であるためには、環境に配慮した便利で快適な暮らしやすい生活を送ることが重要です。また、その持続のためには経済的な活力が欠かせません。働く場の充実を図り、地域の基幹となる産業の活性化へとつながっていきます。『産業が元気』であるためには、農業・漁業・薬業・商業などの各産業の活性化とともに、多種多様な業種で県下有数の出荷額を誇る工業との調和がとれた発展を図っていくことが重要です。

に継承していくとともに、これからのまちづくりの課題となっている少子高齢化の進行や本格的な人口減少時代の到来、価値観やライフスタイルの多様化、あるいは交通体系や情報のネットワーク化の進展、経済のグローバル化と長引く不況による地域産業の停滞など昨今の厳しい社会環境を背景に、もっと元気な地域社会を求める声が強いことを改めて認識することが必要です。そして、それらを力強く乗り越えていくために、新たに『元気な滑川』をキーワードとしたひとやまち、産業の活性化という視点でまちづくりを行っていくこととします。